

事業所名

ばんそうS&S あわっ子らんど

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024年

11月

9日

法人（事業所）理念		健全な体と健全な精神を、利用者も職員も共に持ち続け、思いやりのある、深い絆で結ばれた人と人との繋がりが絶え間なく続き、地域社会とともに発展し続ける法人であるように。							
支援方針		<基本的な心構え> 1. 聞く・洞察する 2. 話しかけてから支援を始める 3. 希望を尊重する 4. 「できること」を大切に 5. 丁寧に観察する 6. 安全の確保							
営業時間		8時	30分	から	16時	30分	まで	送迎実施の有無	あり
		支援内容							
本人支援	健康・生活	送迎時及び来所時に手洗い・検温および心身の健康状態の確認を行います。個々に合わせた日課の提供や行動の細分化を図ることで自主性を促し、基本的日常生活動作の獲得や生活習慣が身につけられるよう支援します。また、天候に合わせて戸外活動を実施し、体力や抵抗力の強化を図ったり、月に1回健康教室を開催し、歯みがき支援や食育並びに感染症対策等健康面に関して意識の向上を図れるよう実施します。							
	運動・感覚	日常基本動作（座る・立つ・歩く）を軸に個々に合わせた運動を提供します。自発運動が少ない児童には姿勢調整を意識したポジショニングによる心肺機能の向上・浮腫の改善や筋緊張の緩和を図ります。また運動機能に障がいがない児童には、体操やサーキット遊びを通して身体図式を意識し、機能向上を目指します。さらに、週に1回音楽遊びを取り入れ、ピアノに合わせて、合唱したり、楽器を鳴らし、楽しみながらリラクゼーションや情緒の安定を図れるよう支援します。							
	認知・行動	一人一人の認知の特性を踏まえ、本人からの要求や表出を促すような環境設定や構造化を図り、自分で選べるよう支援します。また、職員が手本を示したり、小集団の中で実践することで適切な行動に移せるよう目指した支援を実施します。さらに、週に1回読み聞かせの時間を設け、感性を養うとともに絵本の内容から季節や天気、色や数、時間といった概念を楽しみながら自然と学べるよう工夫します。							
	言語コミュニケーション	発語がない児童にはアイコンタクトやジェスチャー、サイン等を用いて意思確認を行います。集会時には児童の呼名を行い、個々の言語レベルに応じた返答の方法を獲得し、また周囲の児童も様々な方法があることを学べ、のびのびと自己表現できるよう支援します。また、他者との交流に重点を置き、やり取りを通して物の貸し借りや順番が守れるよう支援します。							
	人間関係社会性	定期的に玩具の入れ替えを行い、遊びが広がる工夫をします。また、子どもの状況に応じて個別活動と集団活動を組み合わせ、一人遊びから職員を介した協同遊びへと変化させ、子ども同士の親交を深める中で、互いに様々な感情を体験し、自己肯定感や信頼関係を築けるよう支援します。さらに、公共施設を利用し、施設外の人との交流場面を持ち、必要なやり取りを通して社会性を育めるようつなげます。							
家族支援		日々の支援日誌に活動時の写真を添付したり、送迎時に顔を合わせ、子どもの様子を伝えます。定期的な面談及び急な利用ニーズや子どもとの関わりで起こる困り感などの相談に対応し、支援します。			移行支援		新学期やライフステージが変わる際には保護者の承認のもと、学校の担任教諭との面談機会を持ち、個別相談や連携を図り、共通理解を深めるよう努めます。		
地域支援・地域連携		必要に応じて専門機関（医療的ケア児センター等）や相談支援事業所等の関係機関と連携を深め、情報共有や共通理解に努めます。			職員の質の向上		施設外研修参加職員等の報告会、また事業所における毎月の人権擁護委員会や勉強会を実施し、幅広い視点や知識・技術をもって子どもたちと関われるよう職員の資質の向上に努めます。		
主な行事等		季節の行事（新年会、節分、ひな祭り、ハロウィンイベント、クリスマス会）や、保護者を招いた運動会や夏祭り等の行事を開催します。また、長期休みの際には水遊び（プール）やバス遠足 買い物支援・外食支援等実施します。							